

第2章 地区別計画

●「地区別計画」の推進について

(1) 地区別計画推進委員会について

平成23年度・24年度に引き続き、地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指して、各地区の「**地区別計画推進委員会**」（以下、「地区別委員会」という。）が開催されています。委員は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者などが務め、地区の実状に合わせて地区別委員会を組織していただいています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決するとともに、地域活動を継続し、新たな目標に向けた活動へ発展・拡大させ、団体間の連携体制をより強化することなどが求められています。地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、計画の推進に係る各種情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組状況の把握や振り返りを行います。地区別委員会は、各地区の実状に応じて年間2～11回開催され、平成25年度は計画推進の3年目として、地域の取組をさらに充実・発展させる一年となりました。

また、地区別委員会で話し合われた内容をより多くの地域の方々に知っていただくため、「**地区別計画推進委員会通信**」を各地区2回発行し、連合自治会等の協力の下、地区内での班回覧や配布を行いました。

(2) 地区支援チームについて

緑区では、区役所の運営責任職・保健師や社会福祉職、区社協責任職・職員、地域ケアプラザの所長・地域活動交流コーディネーター・地域包括支援センター職員（社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等）で構成される「**地区支援チーム**」が地区ごとに編成されています。そして、「地区支援チーム会議」を毎月開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題などを共有し、解決策や取組について検討しています。こうして、住民主体の地区別計画の推進に向けた地域の取組支援、地区別委員会や地域住民の活動支援をしています。また、チームの支援の力量を向上させるため、拡大地区支援チーム会議や研修なども行っています。（→P.8 参照）

(3) 地区別計画推進委員会連絡会の開催

地区別委員会の委員長、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「**地区別計画推進委員会連絡会**」を4月と9月に開催しました。地区別委員会の開催状況や今後のスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換・意見交換などを行いました。

(4) 地区別計画推進活動報告

地区別委員会では、地区別計画の目標に向けた地域の本年度の取組状況を振り返るとともに、各地区の推進状況をまとめた「**パネル**」を制作しました。また、平成26年2月に開催した「社会福祉大会第2部」では、鴨居地区、新治中部地区、山下地区の代表者から取組状況の報告を行いました。（→P.77 参照）

(5) 地区別計画推進に向けた各種制度の活用

地区別計画推進に向け、区役所・区社協等による事業費補助制度の活用を促進しており、このうち、「緑区地域課題チャレンジ提案事業」では、5地区の事業が採択されました。さらに、昨年度から継続している「地区別計画推進費（→P.6 参照）」とあわせ、地域住民の主体的な取組によって地区別計画がさらに推進していくことを目指しています。

●平成25年度 地区別計画推進状況

＜平成25年度 地区別計画推進委員会 開催状況＞

地区名	委員数	回数	開催日	地区別委員会での主な検討概要
東本郷	30人	3	6/20 9/27 1/15	<ul style="list-style-type: none"> ◆昨年同様、「ひがほん 郷(ふるさと)まつり」を地域と学校が連携して開催する。 ◆昨年度より実施箇所が増加した「ラジオ体操」を継続していく。 ◆「わんわんパトロール」については、「リード標章」の導入などを検討する。 ◆登下校の見守り事業は、自主グループ「鈴の会」に引き継ぎ、充実を目指す。 ◆「あいさつ」を基本とした啓発・取組を進めていく。
鴨居	27人	2	6/15 11/30	<ul style="list-style-type: none"> ◆災害時の安否確認を目的とした「黄色いリボン」事業については、地域の実状に応じて、取組を進めていく。 ◆防災ささえあいカードについては、発災時の対応が課題であるという共通認識のもと、地域全体で検討していく。 ◆3拠点における取組状況を全体で共有した。
竹山	27人	2	6/12 12/4	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティアセンター周知の一環として「包丁研ぎ」を行ったところ、約70本の申し込みがあった。 ◆「防災ブック」NO1とNO2の全戸配付と実地訓練を行った。住民の視点からの「防災ブック」NO3の作成に着手した。 ◆地域情報を発信するためのHPを年度内に開設する。 ◆ふれあいサロン「竹多久」の利用者は1日平均20人。健康づくり教室を始めるなど、地域への浸透に向け取り組む。
白山	30人	11	4月を除く 毎月 第四 土曜日	<ul style="list-style-type: none"> ◆白山「安全・安心なまちづくり」を目指し、毎月推進委員会を開催していく。 ◆5つの目標・理念＜①防犯、②防災、③福祉、④子どもの健全育成、⑤環境＞を踏まえた、各団体の取組状況を共有しつつ、それぞれができることから取組み、みんなでやっていくことを確認した。 ◆推進委員会として傾聴についての研修を行った。
新治中部	30人	3	7/16 11/22 2/13	<ul style="list-style-type: none"> ◆防災訓練を通じてコミュニケーションを取りながら地域での関わりを深めたい。 ◆ささえあいカードに関して、高齢者には個人情報地域役員に知らせて欲しいと考えている方が多い。 ◆防犯として、登下校児童と地域住民があいさつや声掛けをしたり、小中学校で防犯に関する標語を募集し、その標語を地域に掲示していく。
三保	32人	2	6/23 11/17	<ul style="list-style-type: none"> ◆「活動の場」情報などを発信するため、地域活動情報と防災情報のマップを作成し、全戸配布する。 ◆「みどりのわ・ささえ愛プラン」の普及啓発も併せて行う。
山下	27人	2	7/3 1/15	<ul style="list-style-type: none"> ◆災害時のエリア内での情報伝達体制を構築するため、デジタル無線での通信体制を整えることとなった。また、ささえあいカードは、地区内の2地域防災拠点で様式が異なっているため、共通様式を検討・調整を図る。 ◆元気づくりステーションを世代間交流・地域のふれあいの場として活用する。 ◆連合自治会通信を継続して発行できる体制を整える。
新治西部	29人	2	7/26 1/27	<ul style="list-style-type: none"> ◆健民祭(地区別対抗運動会)の参加者を増やしたい。 ◆地域の祭りなど、小学生も地域のスタッフとして活躍してもらえるようにしたい。小さな子どもからお年寄りまで、幅広い世代に呼びかけていきたい。 ◆米の防災備蓄、防犯パトロールなどを継続する。
十日市場 団地	29人	3	6/26 10/17 1/31	<ul style="list-style-type: none"> ◆「お茶飲み会」は参加者・スタッフの双方から評判が高く、回を追うごとに参加者も増えている。無理せず、着実に継続していくことの重要性を確認した。 ◆「お茶飲み会」での取組をベースに、多世代交流の機会なども展開していく。 ◆民生委員児童委員だけでなく、自治会や他の団体がさらに連携しながら、「高齢者の見守り」や「防災」の取組の輪を広げる。
霧が丘	23人	2	6/29 12/21	<ul style="list-style-type: none"> ◆防犯、防災、人材育成、地域での交流など既存の取組を維持しつつ、さらに発展させていきたい。 ◆みどりのわ・ささえ愛プランを地域の人たちに知ってもらうような取組が必要。 ◆住民の高齢化も踏まえ、優先順位をつけて着実に取組をすすめるのがよい。
長津田	30人	2	6/8 12/14	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会未加入の方の中にも、災害時等に助けが必要な場合もあるので、取組を広めていきたい。 ◆認知症への理解を広めるため、2月に講演会の開催を企画した。 ◆地域ケアプラザにも引き続き、地域での講座開催等の協力をお願いしたい。
合計	314人	34		